

令和7年度  
(2025年度)

# 学校評価報告書

茨城県立中央看護専門学校  
学校評価委員会

# I 学校評価について

## 1 はじめに

本校は、社会に貢献する質の高い助産師・看護師の育成において、その教育活動における弱点を改善するため、平成17年度より自己評価を開始した。平成25年3月に、文部科学省生涯学習政策局通知より「専修学校における学校評価ガイドライン」が示され、評価結果の公表を開始した。

さらに、自己評価の客観性・透明性を高めるため、令和元年度より、学校評価の運営方針及び運営方法を再整備し、より広い視野から評価を頂けるよう学校関係者による外部評価「学校関係者評価」を開始し、教育機関としての組織力・教育力の向上を図っている。

## 2 評価の基本方針

- (1) 学校の教育目標、計画に沿った取組の達成状況、学校運営への取組が適切に行われたかを自己評価し、改善すべき事項及びその対策について明確にするとともに、その結果を公表する。
- (2) 学校と密接に関連する地域関係者・行政・教育関係者・実習施設の指導者・卒業生等の立場から自己評価の結果を客観的に評価していただき、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、教育活動の質の向上、地域関連機関との連携強化を目指す。その結果は自己評価と同様、ホームページに掲載し広く社会に公表する。

## 3 評価体制

- (1) 学校評価委員は学校長、副参事兼教頭、教頭、各学科教務主任、専任教員4名の11名。必要な事項は実施要綱に定めて管理・運営している。
- (2) 学校関係者委員は実習施設から2名、教育機関から2名、卒業生代表（各学科同窓会会長）・行政から1名の8名体制である。

## 4 評価の種類

- (1) 教職員が学校運営評価表を用いて学校運営全般を自己評価する「教職員による学校運営自己評価」（参考資料）
- (2) 令和7年度の重点目標（組織目標）達成に向けた取組状況を評価する「重点目標の評価」
- (3) その他として次の取組みを評価
  - ・学生の学校生活満足度調査結果（資料1）
  - ・公開授業に参加した臨地実習指導者からのアンケート結果（資料2）
  - ・保護者の授業参観、保護者会の実施状況とアンケート結果（資料3）

## II 教職員による学校運営自己評価

### I 自己評価の実施

対 象:教職員 26 名(学校長、会計年度職員除く) 内訳:教員: 23 名、副参事・庶務:3名

基 準 日:11 月 30 日 調査期間:令和7年 11 月 25 日(火)~12 月 5 日(金)

調査方法:校内ネットワークを用い、教職員個別にデータを入力。入力データをもとに集計。

評価基準:4段階尺度… 4-とてもそう思う 3-まあまあそう思う 2-あまりそう思わない 1-そう思わない

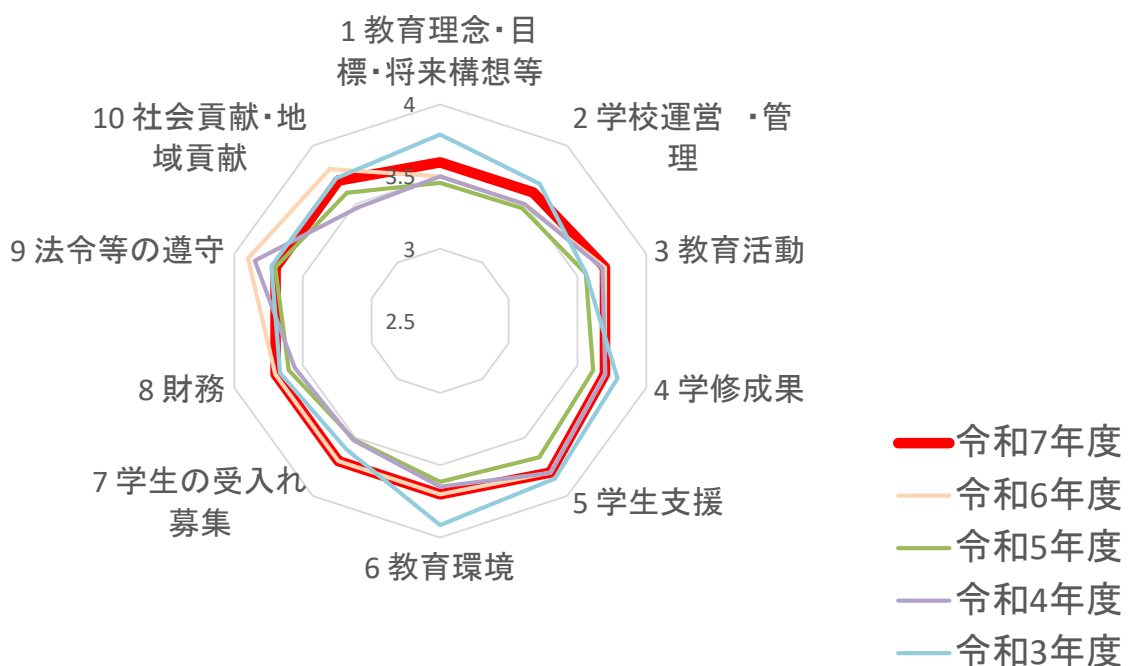
有効回答:100%

### 2 評価項目(大・中項目)の評価結果

(1) 年度ごとの学校運営自己点検・自己評価の推移>

	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
1 教育理念・目標・人材育成像・将来構想	3.6	3.5	3.5	3.5	3.8
2 学校運営・管理	3.6	3.5	3.5	3.5	3.7
3 教育活動	3.7	3.7	3.6	3.7	3.6
4 学修成果	3.7	3.7	3.6	3.7	3.8
5 学生支援	3.8	3.8	3.7	3.8	3.9
6 教育環境	3.7	3.7	3.6	3.6	3.9
7 学生の受入れ募集	3.7	3.7	3.5	3.5	3.6
8 財務	3.7	3.7	3.6	3.6	3.7
9 法令等の遵守	3.7	3.9	3.7	3.9	3.7
10 社会貢献・地域貢献	3.7	3.8	3.6	3.5	3.7

### 年度ごとの自己点検・自己評価



(2) 各学科の自己点検・自己評価

大項目	評価(参考R6)	中項目	平均	助産	3年課程	2年課程	庶務
1 教育理念・目標・将来構想等	3.6↑ (3.5)	1-1 教育理念等の設定	3.7	4.0	3.8	3.3	3.8
		1-2 教育理念等の到達評価	3.7	4.0	3.5	3.3	3.8
		1-3 学校の将来構想の明文化	3.4	3.4	3.5	3.2	3.4
<p>&lt;分析&gt; 前年度の学校運営評価結果を基に、年度当初の教職員会議で運営方針や重点目標を周知し、その後の教育活動に反映できるように教職員に周知している。県の医療計画に基づき令和8年4月から看護学科が4年間の教育を開始するが、社会情勢の変化に応じた、本校の中長期的将来構想が不明瞭と捉えている教員がいる。</p>							
大項目	評価(参考R6)	中項目	平均	助産	3年課程	2年課程	庶務
2 学校運営管理	3.6↑ (3.5)	2-1 学校経営	3.6	3.7	3.6	3.5	3.8
		2-2 組織の整備	3.5	3.8	3.5	3.2	3.5
		2-3 危機管理	3.7	4.0	3.6	3.6	3.6
		2-4 情報管理	3.8	4.0	3.7	3.7	3.7
		2-5 教職員の協働意欲	3.2	3.6	3.0	3.2	3.5
<p>&lt;分析&gt; 令和8年4月からの4年制化、看護学科2年課程の募集停止に向けて、教育課程の申請手続き・老朽化に伴う設備修理など、今後の学校運営について共有する機会が増えた。低い項目は、職員の協働意欲であった。新学科の準備や新任教員の割合が高い学科があり、その中で学科横断の授業・演習の協働をすすめた。しかし休職者が複数人発生したことも影響があり、業務が集中したことや繁雑さを生じ、協力・改善といった観点で話し合う機会を持てなかった。そのため、教員間のコミュニケーションの取りづらさが発生していると考えられた。教育年数が浅い先生も含めて、お互いを尊重して意見が言える雰囲気づくりを全員で共通認識することが必要。</p>							
大項目	評価(参考R6)	中項目	平均	助産	3年課程	2年課程	庶務
3 教育活動	3.7↑ (3.6)	3-1 教育課程の編成	3.6	3.8	3.5	3.5	3.7
		3-2 学生支援・ガイダンス	3.9	4.0	3.8	3.7	4.0
		3-3 科目担当・時間	3.3	3.5	3.1	3.0	3.7
		3-4 対象者への実習協力依頼	3.9	4.0	3.7	3.8	4.0
		3-5 授業方法の工夫・研究	3.6	3.6	3.4	3.5	3.8
		3-6 授業評価	3.9	4.0	3.7	3.8	4.0
		3-7 単位の管理	3.9	4.0	3.8	3.8	3.9
		3-8 教員の育成	3.4	3.5	3.3	3.2	3.5
<p>&lt;分析&gt; R4年度改正カリキュラムから3年が経過し、毎年教育内容と方法の見直しを実施している。教育活動の質を高めるためには、教員会議の運営方法の見直しや、教育理念—教育目標—学科目標—科目目標とのつながりを明確し、共有にすることが必要である。評価が低い項目は、科目担当時間と教員の育成であった。教育の質を担保し教育活動を実施するために、年度途中で教員の休・退職による人員減があったことや経験年数の浅い教員が多いことで、科目担当時間数が増加し、授業・演習の準備が業務時間内に組み入れることが困難であることが要因である。学生の特性に合わせた対応や、臨地実習指導に時間がかかる。そのため、教員はカリキュラム運営上、専門領域外の授業や実習担当をせざるを得ない状況であり、新しい科目の授業担当の場合は、準備に時間を要することも要因である。新任教員の受け入れ体制の整備のため、ラダー制度を運用開始したが、一人前、中堅教員の教育体制は体系化されていない。学校運営の要となる中堅教員の研修体制の整備が必要である。</p>							
大項目	評価(参考R6)	中項目	平均	助産	3年課程	2年課程	庶務
4 学修成果	3.7→ (3.7)	4-1 資格取得	3.7	4.0	3.4	3.6	3.9
		4-2 看護実践力	3.7	3.8	3.5	3.3	4.0
		4-3 就業率・進学率向上支援	3.7	3.8	3.7	3.5	3.8
		4-4 国試不合格者の支援体制	3.7	3.8	3.5	3.7	3.8
		4-5 キャリア支援	3.5	3.4	3.5	3.5	3.6
<p>&lt;分析&gt; 看護師・助産師国家試験合格のため、定期的に模擬試験を実施し、結果を分析し対策を講じている。成績低迷者には個別で学習支援を強化している。しかし、1年次から卒業までの体系的な国家試験対策の立案までは至っていない。各学年の学生の特性を踏まえ、ディプロマポリシー(卒業認定の方針)との関連を踏まえた総合的な計画が必要である。講義・演習・臨地実習との関連をもたせた各科目の振り返りを強化する。看護実践力の醸成において昨年度からOCSE(客観的技術試験)を看護学科で開始した。各学科の学生の特性や学科進度に合わせて企画運営している。実施後の課題を次年度に生かし、ブラッシュアップしていく必要がある。卒業生へのキャリア支援については、来校時に相談に応じ、キャリアアップにつなげているが、カリキュラム評価の視点から、ホームカミングデイなどを設けることも必要である。</p>							

大項目	評価(参考R6)	中項目	平均	助産	3年課程	2年課程	庶務
5 学生支援	3.8→ (3.8)	5-1 学習支援	3.7	3.9	3.5	3.8	3.8
		5-2 健康管理・感染・安全対策	3.8	3.7	3.7	3.8	3.9
		5-3 進路・就職への支援	3.6	3.7	3.6	3.6	3.5
		5-4 学生相談の整備	3.8	4.0	3.6	3.8	3.9
		5-5 生活環境支援体制	3.8	4.0	3.5	3.8	3.8
		5-6 保護者との連絡体制	3.7	3.9	3.7	3.4	3.8
		5-7 経済的支援	3.9	4.0	3.7	3.8	4.0
<p>&lt;分析&gt; 担任・実習チーム制となり3年目となった。学年担当教員がクラス運営に専念したことで、学年の特性や学生一人一人に合わせた支援が出来る。また、助産学科・看護学科3年課程では保護者の授業参観を実施し、その後保護者会を開催するなど連携を密に行い、学習支援へ連携協力の対応をしている。丁寧に関われば授業参観では好意的な意見が聞かれるが、一方で教員への業務・心理的負担が多い。学校全体で業務をもう一度見直し、学生支援の業務整理・効率化が喫緊の課題である。</p>							
大項目	評価(参考R6)	中項目	平均	助産	3年課程	2年課程	庶務
6 教育環境	3.7→ (3.7)	6-1 校舎の整備	3.6	3.8	3.6	3.4	3.8
		6-2 福利厚生	3.7	3.9	3.5	3.6	3.9
		6-3 図書室の整備・管理	3.7	3.7	3.6	3.7	4.0
		6-4 教材の整備・管理	3.8	4.0	3.7	3.7	3.9
		6-5 実習施設の整備	3.6	4.0	3.3	3.2	3.9
		6-6 実習指導体制	3.7	4.0	3.5	3.4	3.8
<p>&lt;分析&gt; 校舎の老朽化、看護学科4年制化に伴い施設改修が年間を通して実施している。教育環境として図書の新刊図書購入を進めている。文献検索の拡充は、4年制カリキュラムの進捗に合わせて整備していきたい。教育環境としての実習施設整備では、実習施設によっては整備が行き届いていない施設もあり、指導者の連携協力体制が不十分である施設も確保せざるを得ないのが現状である。4年制の臨地実習施設確保は、教育目的・目標を達成できる指導体制が整備されている施設を開拓し、連携協働していきたい。</p>							
大項目	評価(参考R6)	中項目	平均	助産	3年課程	2年課程	庶務
7 学生の受入れ募集	3.7→ (3.7)	7-1 学生募集	3.9	4.0	3.7	3.8	4.0
		7-2 入学選抜	3.9	4.0	3.8	3.8	4.0
		7-3 学生の充足	3.5	3.6	3.5	3.4	3.5
<p>&lt;分析&gt; 4年制化決定後、精力的に県内高校訪問や進学ガイダンス参加を実施した。オープンキャンパスは対面やオンラインなど、各学科で工夫して募集活動を実施した。看護学科(4年制)は推薦・一般入試受験応募者が昨年度より3倍に増加した。助産学科の受験希望者は依然多く、一般入試では5倍となっている。</p>							
大項目	評価(参考R6)	中項目	平均	助産	3年課程	2年課程	庶務
8 財務	3.7→(3.7)	8-1 予算執行状況・財務	3.7	4.0	3.8	3.3	3.7
<p>&lt;分析&gt; 年度当初の教職員会議で運営予算について説明をうけ、運営会議では、毎月の決算状況の報告を受けている。そのことにより財務関係の意識は高まっているが、個人差はある。</p>							
大項目	評価(参考R6)	中項目	平均	助産	3年課程	2年課程	庶務
9 法令等の遵守	3.8↓ (3.9)	9-1 法令・設置基準等の整備	3.8	4.0	3.7	3.5	4.0
		9-2 個人情報規程の整備	3.8	4.0	3.7	3.8	3.8
		9-3 学校評価の実施公表	3.8	4.0	3.7	3.6	3.8
<p>&lt;分析&gt; 4年制の申請に向けて、学校運営に必要な諸規程を見直している。毎年個人情報保護や情報セキュリティ研修、ハラスメント防止研修を積極的に受講し、意識付けしている。</p>							
大項目	評価(参考R7)	中項目	平均	助産	3年課程	2年課程	庶務
10 社会貢献・地域貢献	3.7↓ (3.8)	10-1 教育資源・施設の活用	3.8	4.0	3.7	3.5	3.8
		10-2 学生ボランティア活動	3.7	3.8	3.8	3.5	3.8
		10-3 地域との交流支援	3.7	3.6	3.8	3.5	3.8
<p>&lt;分析&gt; 新たなボランティア依頼は受け、各学科で参加できるボランティアを検討して参加できた。看護学科では、実習施設の催し物のボランティア、助産学科では、消防大学の母体救急研修会場など、校舎改修中ではあるが、協力できるボランティアには協力できた。</p>							

### 3 重点目標に関する評価

(1) 評価結果 ※評価基準：4段階尺度 … 4:とてもそう思う 3:まあまあそう思う 2:あまりそう思わない 1:そう思わない

#### ○重点目標1 高い学びの質と探求的な学習姿勢の育成

細目標 ( )は自己点検自己評価の小項目 NO	平均	小項目 平均	助産 学科	3年 課程	2年 課程	庶務
(1) アクティブ・ラーニング型の授業及び ICT 教育を進展させ、対話を通じて学生の主体的な学びを支援する (2-2-20,3-5-47,3-5-49,3-5-51,3-8-66)	3.6	3.5	3.5	3.4	3.5	3.7
(2) 教育進度や学生の習熟度、特性に応じた指導を充実させ、国家試験合格を支援する(4-1-68,4-1-69,5-1-76)		3.7	4.0	3.5	3.7	3.9
<p>&lt;評価&gt;</p> <p>アクティブラーニング型授業や ICT 活用、国家試験対策において、各学科が工夫を凝らした教育実践を行い、学生の主体的な学びや学習支援につなげることができた点は評価できる。一方で、これらの取り組みは教員個人や学年単位の努力に支えられている側面が大きく、教員の業務負担増や実践の属人化が課題として明らかになった。次年度は、教育の質と学生支援を維持・向上させながら、学校全体として取り組みを整理・共有し、持続可能な教育体制へと発展させていくことが求められる。</p>						

#### ○重点目標2 学生の総定員の確保

細目標 ( )は自己点検自己評価の小項目 NO	平均	小項目 平均	助産 学科	3年 課程	2年 課程	庶務
(1) 助産学科及び4年制1期生を含めた新入生確保を目指し、学校の魅力を発信する(7-1-124・125,7-1-127・128,7-1-130,7-2-131~132))	3.8	3.9	4.0	3.7	3.8	4.0
(2) 保護者及びカウンセラーと連携強化し、学業継続に向けた支援をする。 (5-4-86・87,5-6-89・90)		3.8	4.0	3.7	3.6	3.9
<p>&lt;評価&gt;</p> <p>本年度は、学生の確保と定着を重点目標に掲げ、入学前から在学中までを見据えた支援の充実に取り組んだ。入学前の情報提供や入学後の学習・生活支援、教員による継続的な面談を通して、学生一人ひとりの状況を把握しながら、学業継続に向けた支援体制の強化を図った。また、保護者やスクールカウンセラーとの連携を進め、学習面のみならず心理的側面を含めた多角的な支援を行ったことにより、学生の不安や困難を早期に把握し、必要な支援につなげることができた。これらの取り組みは、学生が安心して学修を継続できる環境づくりにつながったと評価できる。一方で、学生の背景や課題が多様化する中、学業継続支援の方法や対応の基準は学科や担当教員に依存する部分が多い。学生確保に関する取り組みと在学中の定着支援との関連性は、十分に可視化できていない部分もあるが、今後も連携を強化して取り組んでいきたい。</p>						

#### ○重点目標3 教員の教育力向上

細目標 ( )は自己点検自己評価の小項目 NO	平均	小項目 平均	助産 学科	3年 学科	2年 学科	庶務
(1) シミュレーション教育を進化させ、実践的な助産・看護教育を強化する。 (4-2-70,6-4-109,6-4-113,3-5-48,3-1-35)	3.6	3.7	3.8	3.6	3.6	3.8
(2) 実習施設や他教育機関と連携し、質の高い看護教育を共創する。 (3-2-40,3-5-50,6-6-120,6-6-123)		3.6	4.0	3.5	3.3	3.9
(3) 教員のキャリアラダー制度を整備する。(2-2-22,3-8-62~65)		3.3	3.4	3.3	3.2	3.4
<p>&lt;評価&gt;</p> <p>本年度は、シミュレーション教育を中心に、実践的な助産・看護教育の質向上に向けた取組が各学科で進展した。授業前後の検討や振り返り、看護技術到達度の分析を通じて、教員自身が教育方法を見直す機会となり、シミュレーション教育は授業方法として定着しつつある。また、実習施設との連携や臨地実習指導者会議、公開授業を通して、学生の学習状況やレディネスを共有し、指導の質向上を図る取組が継続的に行われた。一方で、実習施設や指導者間で教育力や指導方法に差があること、限られた会議時間の中で十分な協議が難しいことなど、連携の質をさらに高めるための課題も明らかとなった。加えて、教員のキャリアラダーについては、新任教員以外への活用が十分でなく、業務過多や配置の影響により、研修や研究活動に継続的に取組む時間の確保が困難な状況がみられた。 → 今後は、シミュレーション教育の評価方法を含めた教育改善サイクルを明確にするとともに、実習施設との協働を一層深化させる必要がある。また、教員のキャリア段階に応じたキャリアラダー制度を整備し、研修・研究を含めた教員の成長を組織的に支援する体制を構築することが、教育力向上に向けた重要な課題である。</p>						

## ○重点目標4 4年制教育の推進

細目標 ( )は自己点検自己評価の小項目 NO	平均	小項目 平均	助産 学科	3年 課程	2年 課程	庶務
(1)4年制及び2年課程閉課の変更承認申請を計画的に進める。 (2)全教員が4年制教育に関心を持ち、主体的に準備に関わる。 (3-1-31~33,3-1-35)	3.6	3.6	3.9	3.5	3.5	3.7
(3)在校生の教育活動・環境を維持しながら施設改修を安全に進める (6-1-95~97)		3.6	3.7	3.5	3.3	3.7
<p>&lt;評価&gt;</p> <p>本年度は、4年制教育への移行および2年課程閉課に向けた制度的・物理的基盤整備を、計画に沿って着実に進めることができた。教育課程および学則変更に関する承認申請は期限内に完了し、助産学科においても4年制教育理念を踏まえた教育内容の見直しを行うなど、制度移行に向けた準備が具体的に進展した。また、施設改修についても、庶務を中心に工事計画へ参画し、老朽化対策や4年制教育に対応した環境整備が進められた。</p> <p>在校生への教育活動においては、工事期間中も安全確保と学習環境の維持に配慮し、教材・器材の点検や自主学習環境の整備、必要に応じた教室調整などの対応が行われた。一方で、工事に伴う騒音刺激臭や実習室使用制限などにより、学生の学習環境への影響が一部生じたことは課題として残った。また、シミュレーション室整備については、建築基準法上の制約により計画変更を余儀なくされ、柔軟な対応が求められた。</p> <p>教員の4年制教育への関心は一定程度共有されているものの、主体的な参画や意見集約は十分とは言えず、準備が一部の教員に偏る傾向がみられた。今後は、4年制運営体制を早期に確立し、施設改修を含む環境整備を「自分事」として捉え、全教員が役割を持って関与できる体制づくりが重要である。教育活動と施設整備を両立させながら、円滑な4年制教育の本格始動につなげていくことが次年度の大きな課題である。</p>						

## ○重点目標5 組織の効果的及び効率的な運営の推進

細目標 ( )は自己点検自己評価の小項目 NO	平均	小項目 平均	助産 学科	3年 課程	2年 課程	庶務
(1) 教員間の対話を促進し、学科横断での共同を推進する。 (2-5-29)	3.3	3.3	3.6	2.7	3.2	3.4
(2) 職員相互に支え合いながら業務の効率化を推進する。(2-2-30)			3.6	3.2	3.2	3.6
(3) 教員の心理的安全性を確保し、誰もが意見を言いやすい職場風土を醸成する。(2-2-17)			3.6	2.9	3.0	3.4
<p>&lt;総合評価&gt;</p> <p>本年度は、教職員間の連携や心理的安全性の確保に向けた意識づけを行ったものの、組織全体として十分な成果を上げるには至らなかった。特に、3年課程では教員の療養休暇が複数名生じたことで業務負担が一層増大し、心身の余裕が欠いた状態が続いている。これにより、自由に意見を言い合える雰囲気や、相互に支え合う関係性が損なわれ、心理的安全性の確保という点で大きな課題が残った。特に、業務負担の偏りや人員不足に起因する心身の疲弊が、対話や協働を妨げる要因となり、教員間の相互理解や支え合いを困難にしていた。</p> <p>心理的安全性に関する研修の実施や会議を通じた課題共有が行われたものの、業務負担や精神的プレッシャーが強い状況では、研修成果が十分に職場風土の改善に結び付いたとは言えず、組織全体として構造的な改善が必要であることが浮き彫りとなった。</p> <p>以上より、本目標は学校として最重要課題の一つであるため、次年度は、業務の可視化と役割整理を基盤とし、対話の場を意図的に設けることで、教員一人ひとりが安心して関われる職場環境の再構築を図る必要がある。本目標は学校運営の基盤であり、継続的かつ組織的な取組が強く求められる。</p>						

### Ⅲ 学校関係者評価委員会\_結果

茨城県立中央看護専門学校は、「令和7年度茨城県立中央看護専門学校の自己点検・自己評価結果報告書並びに重点目標評価報告書」を基に、学校関係者評価委員会を実施しましたので、次のとおり報告します。

#### 1. 学校関係者評価の概要と実施状況

##### (1) 評価体制

###### <学校関係者評価委員>

外塚 恵理子	茨城県立中央病院看護局副総看護師長
箱守 千春	訪問看護ステーションやまびこ管理者
五島 浩一	茨城大学
辻 武伺	茨城県立 IT 未来高等学校 学校長
重原 裕美	笠間市こども部 こども育成センター長
藤田 繁好	看護学科2年課程同窓会長
渡邊 理恵	看護学科3年課程同窓会長
齋 洋子	助産学科同窓会長

###### <学校側>

高柳 久美	学校長
鈴木 剛	副参事兼教頭
市毛 啓子	教頭
野上 尚子	主査

##### (2) 学校関係者評価委員会

日時 令和8年2月19日(木) 午前10時から11時20分

場所 茨城県立中央看護専門学校 講義棟 会議室B

出席者 9名 関係者委員5名(外塚委員、五島委員、辻委員、重原委員、渡邊委員)、学校側4名

欠席者 3名 関係者委員(箱守委員、藤田委員、齋委員)

#### 2. 評価結果 (関係者評価委員全員から提出された重点目標の評価・意見の集計)

<評価基準> 4:とても良い 3:まあまあ良い 2:やや不十分 1:不十分

##### (1) 自己点検・自己評価について 平均:3.3ポイント

- ・教育理念や学校運営管理、教育活動等、昨年度と比べ評価が高くなり、4年制に向け、目標を明確に日々活動した成果の表れと思われる。
- ・全体的に評価ポイントが上がっているが、教育活動の中項目で4.0が無いのが気になる。
- ・全職員による教育の重点目標や運営方針の共通理解のもと、細かい点まで配慮の行き届いた教育が施されている。
- ・学修面はもちろん、進路や生活面まで含めた学生への支援にも力を注がれている様子がうかがえ素晴らしい。
- ・教育環境の整備の面で、今後ICTを更に整えていけると良い。
- ・学校運営に関しては、安定した運営を管理職や教職員で実施対応されている。
- ・4年制化に向けて検討、対応することが複数あると思うが、現状の体制でうまく運用されている。
- ・教職員の休職者が生じたことによる業務負担の増大、コミュニケーション不足、協力体制が構築されなかった点について改善策を検討する必要性がある。しかし学生満足度調査の教育面では高評価であったため、教員のご苦勞が学生の学びに反映されていると思われる。
- ・学校運営評価から取り組みが進められ、目標も概ね達成されていることがうかがえ、教育活動における育成面での課題も整理されており、改善に向けた前向きな姿勢が示されている。
- ・全体評価が昨年よりやや上昇していることから学校としての取り組みの積み重ねの成果を感じる。今後も強みを活かしながら、さらなる充実に向けた取り組みが進められることを期待したい。
- ・学校運営や教育活動などで人員減による他への負担の増加は、現在ほどの現場においても困難な問題となっており、最終的には生徒への支援に影響が出てしまうと考えられる。
- ・教える側が疲弊することなく安心して意欲的に教育できる環境へのアプローチが評価を上げるために必要。実習を受け入れる現場も同様であり、人員の多さや内容の充実している施設に期間なども工夫して配置することも必要になってくる。

## (2) 重点目標の評価について 平均：3.4ポイント

- ・社会の動向にも合わせ、教育内容・手法を工夫した取り組みで教育の質の向上につながっていると思われる。
- ・4年制教育の移行を着実に準備し今後の教育体制が期待される。
- ・目標5の職場風土が2ポイント台である。どの職場でも同様の課題があるため共に検討していきたい。
- ・学生の主体的な学びが展開されていることが自己評価からも公開授業からも伺えた。教員の教育力向上につながっていると感じる。
- ・4年制教育への準備も着々と進められ期待が持てる。
- ・教員の療養休暇に伴う業務負担増については、今後同じような事態が起こった場合を考えた制度の見直しや人材確保を考えておく必要がある。
- ・各重点目標に関しては、現状を踏まえると達成しているように見える。
- ・今後は、ICT化と教職員間のコミュニケーション強化が必要になる。さらなるDX化の推進を期待する。
- ・4年制に対応した教育内容に教員が円滑に移行できるよう、キャリアラダーや相談協力体制の構築などの課題への取り組みを期待したい。
- ・今回の評価から業務負担の偏りや人員不足を原因とする心身の疲弊が対話や協働、心理的安全性の確保に影響しているとの分析がされており、現状を率直に捉えた重要な視点であると感じとれる。
- ・課題を共有し改善を図ろうとする姿勢を大切にしながら、安心して意見を交わせる職場環境の充実につながることを期待したい。
- ・重点目標5についての業務負担の軽減については、ICTの活用により軽減できる部分もある。業務をICTにより管理することで、人員不足や事務作業、書類の多さの負担を軽減していく必要がある。
- ・心理的な負担に対しては、定期的な面談やカンファレンスにより問題点や本人の精神的なフォローをしていくことも必要である。

## (3) 学校評価全体を通した各委員からの意見

- ・保護者や地域の医療関係者等にも授業を参観してもらうなど、開かれた学校として努力されていることがよく分かる。あたたかく整った教育環境（先生方を含み）の中で学ぶことによって、入学してから学びを重ねるごとに成長していく学生さんの姿が見られ、心地よく感じる。
- ・授業参観や保護者会への参加状況からも関心をもっておられることが伺える。教員の負担は大きいと思うが、学生の状況を把握し学校と家庭の両方で支援できるよう継続した取り組みとなることを期待したい。
- ・社会背景も変化が著しい時代であり、学生から新人教育にかけては継続的な教育が必要であり、実習を受け入れる側の課題もあると感じながら説明を聞いていた。
- ・授業参観については、担当する先生方は緊張もするが、とても良い事である。保護者の評価という第三者の評価という視点でも継続してほしい。
- ・教育経験が浅い教員については、当院との人事交流もあるなかで共に育っていければと思う。
- ・評価会議は学校運営の中で大切なのであるが、他の学校の学校評価などを参考にすることも良いのではないかと。自校が何をめざしているのか。そこを評価するという視点が必要である。教職員が何を頑張れば良いか明確に絞ることが必要である。重点目標の評価が大切なのはと感じた。
- ・4年制になり、特にこの学校でどこを売りにしていくか、そこを明確にして、それに沿った評価をしていく必要があると感じる。公表しなければならぬからとなると、先生たちも辛くなるのではないかと。（自分もそうであった）
- ・授業参観などに参加し、学生満足度調査でも高評価であることから、先生方が学生に寄り添っている場面を実際みているので、それが結果として評価されているのだと思う。
- ・ICTの活用については、医療業界でも必要になっていると思うので、更に活用を推進できると良い。
- ・はじめて評価会議に出席し、資料をみると細かい部分まで評価されていると感じた。
- ・授業をみせていただいて、学生さんたちが生き生きとやっている様子が分かった。しっかりとした考えを友達同士でも楽しそうに話しており、雰囲気はすごく良いと感じた。
- ・先生方のコミュニケーションについては、学校組織としてはとても大切である。自身が赴任した当初は、職員室内にとっても壁があったため、雰囲気作りだけでもしたいと思い、横に丸いテーブルなどを置いたり立ったままで会話

が出来るようにロッカーをならべて工夫した。お菓子などを置いたり、コーヒー飲みながら会話したり、そのような場所を作るだけでも違う。県の教育委員会で褒められ、視察なども来ている。生徒の居場所も大切だが、教職員の居場所作りも大切だと思う。今は生徒が自由に勉強したい場所、楽しくご飯を食べたい場所などを造り出している。森林組合からいただいた丸太を利用してテーブルを造り工夫している。

- ・日頃の学校での様子をホームページにのせて、保護者に周知できるよう工夫している。
- ・生徒に探求学習などで、次世代の医療についてアイデアなどを出してもらおう工夫すると主体的な学習につながるのではないかと。
- ・先生方が丁寧に学生に関わっているのがよく分かる。ただ休職者が出ているという事ではコミュニケーションの面でどうだったのか、協力体制が構築されていなかったのか、そのあたりが課題なのかと感じる。
- ・学生満足度調査では高評価を得ているので、先生方は本当に頑張っていると思う。
- ・キャリアラダーについても中堅教員の教育体制が必要ですし、心理的安全性が保てる環境の確保が必要であると感じる。
- ・4年制の実習の調整をさせていただいているが、笠間市では細分化されているため、地域実習の中でどこを学びたいのか、どういう事業をまなびたいのかを明確にいただけると良いかと思う。
- ・先生方の業務の負担が多いというのは資料からみて取れる。学生さんに丁寧に関わっている分、ご負担があるのかとも思う。
- ・コミュニケーションの課題は引き続き改善の取り組みを期待したい。
- ・学生の実習受入については、病院の教育担当と力を合わせて改善に取り組みたい。
- ・学校と保護者との連携がされていることで、学生の成長につながっていることが理解できた。
- ・同窓会の立場として、新人看護師として3か月過ぎるころになると、自信を無くしてしまうこともあるので「学校に来てください」（ホームカミングデイ）などがあると学校側でもサポートしていただけると良いかと思う。

#### (4) 学校関係者評価委員からの質問

○個人情報管理、AI活用に関することについては、どのように気を付けていくのか一緒に考えていきたい。

⇒**学校** 今後、AI利用ガイドラインの作成を検討している。

○学生がコミュニケーション取りにくさとか特性がある学生の対応については支援員がいるのか？ 看護師という職業上、卒業までに自己理解までしてもらって看護師として継続できるような支援が必要であると感じた。

⇒**学校** 担当の支援員はいない。学生相談のカウンセラーが2名体制でいるので、教員と連携しながら対応している、カウンセリングでは、発達障害傾向の学生の学習面や実習面でも工夫の仕方などを、一緒に考えてくれている。

○先生方の働き方改革ということで、時間外はどうか。

⇒**学校** 自動的に計算されて、組織全体で確認できるようにシステム化されている。多い先生は月30時間の時もある。年間の行事等の時期にもよる。45時間を超えると通知がくるようになっており、業務調整などを個別に対応している。

○保護者の授業参観は素晴らしい取り組みだと思う。支援が必要そうな学生さんの親などの参加率などはどうなのか教えてほしい。

⇒**学校** 支援が必要な学生には、日頃から学年教員が保護者と連絡を密に取っている。授業参観に参加後に時間を持って面談をすることもある。学習面でも再試験が続く場合は、親に連絡をして協力をお願いしている。

## IV 学校運営評価の総括

＊今年度の学校評価自己評価・重点目標及び学校関係者評価委員の評価結果から得られた課題と次年度の取り組みについて

本校の教育活動および学校運営については、教育理念のもと教職員が連携しながら取り組みを進めており、学生満足度調査や公開授業の結果からも、学生一人ひとりに寄り添った教育が実践されていることが確認された。授業においては学生同士の意見交換や主体的な学びが見られ、看護専門職として必要な思考力や判断力を育成する教育環境が整えられていることが評価された。また、授業参観や保護者会の開催など、教育活動を外部に開く取り組みを行い、地域や関係者との信頼関係の構築にもつながっている。

一方で、教員の休職等に伴う業務負担の増加や人員体制の課題があり、教職員の心身の負担が大きくなっている状況も指摘された。こうした状況は、教職員間のコミュニケーションや協働体制の構築にも影響を及ぼす可能性があることから、組織としての支援体制や業務の見直しが必要である。また、少子化の進行により学生確保がさらに課題となる中、本校の教育の特色や4年制教育の魅力を継続的かつ戦略的に発信していく広報体制の強化も重要である。

令和8年度からは4年制教育が開始され、3年課程と看護学科が併存する過渡期を迎える。本校が地域医療を担う看護職の育成拠点としての役割を果たしていくためには、教職員が互いに支え合いながら教育の質の向上に取り組み、学生が安心して学べる教育環境を整備していくことが不可欠である。

以上より、今後は本校の教育の魅力を積極的に発信し、地域社会から信頼される看護師・助産師養成機関として発展することが期待されることから、組織的な協働体制の強化と教育力のさらなる向上を図ることが重要な課題である。

# 【令和7年度学生満足度調査結果】

資料1

① 調査における構成要素

- ア 学校の使命である「教育」に対する学生の満足度
- イ 教育をハード面から支える「施設・設備」に対する学生の満足度
- ウ 教育をソフト面から支える「心身・社会的な学生支援」に対する満足度
- エ 学校生活を通じた人との良好な関係形成、自己成長に繋がる機会など、総合的な満足度

② 項目と質問内容：構成要素4項目をふまえた、小項目25の質問内容とした。

③ 評価尺度：5.十分 4.やや十分 3.どちらでもない 2.やや不十分 1.不十分（昨年度より上昇は青字、低下は赤字）

④ 調査期間：令和7年11月10日～12月12日

⑤ 調査方法：いばらき電子サービスによる入力フォームを利用（QRコードで読み取り）

⑥ 回答率：全体 95.1%（143名中 138名 各学科・学年の回答率は表の下部参照）

	質問内容	3年課程	3年課程	3年課程	2年課程	2年課程	助産	全体 平均	参考 R6年
		1年生	2年生	3年生	1年生	2年生			
1 教育 面	(1) カリキュラムの科目構成は適切だと思いますか	4.45	4.31	4.12		4.09	4.35	<b>4.26</b>	4.10
	(2) 時間割は履修しやすく設定されていますか	4.11	3.72	4.03		3.82	4.06	<b>3.95</b>	3.94
	(3) 教員の講義は理解しやすいですか。	4.00	4.26	4.03		3.91	4.47	<b>4.13</b>	4.05
	(4) 教員の演習は理解しやすいですか。	4.42	4.44	4.09		3.73	4.53	<b>4.24</b>	4.26
	(5) 教員の実習指導は理解しやすいですか	4.53	4.03	4.15		4.00	4.18	<b>4.18</b>	4.05
2 施設 ・ 設備	(6) 教室内の照明・空調・音響機器の設備は整備されていると思いますか	4.03	3.23	3.67		3.82	3.88	<b>3.72</b>	3.43
	(7) 演習室等の室内設備・使用上の環境は整備されていると思いますか	4.26	4.05	3.94		3.18	4.18	<b>3.92</b>	3.86
	(8) 体育館の設備・使用上の環境は整備されていると思いますか	3.97	3.82	3.64		3.18	3.82	<b>3.69</b>	3.81
	(9) 実習室の備品・設備・使用上の環境は整備されていると思いますか	4.39	4.15	3.94		3.73	4.29	<b>4.10</b>	4.05
	(10) 図書室内の室内設備・学習スペース・図書の貸出・蔵書数・種類等の整備状況に満足していますか	4.50	4.51	4.03		3.82	4.41	<b>4.25</b>	4.13
3 学生 支 援	(11) 学内で交友関係を広げる機会がありますか	3.95	3.95	3.79		3.00	3.82	<b>3.70</b>	3.76
	(12) 昼食環境に満足していますか	3.87	3.79	3.79		3.00	3.76	<b>3.64</b>	3.77
	(13) 健康診断など健康面の支援に満足していますか	4.58	4.36	4.18		3.45	4.41	<b>4.20</b>	4.08
	(14) カウンセラーによる精神面の支援体制に満足していますか	4.58	4.41	4.09		3.55	4.06	<b>4.14</b>	4.06
	(15) 教員との面談により学習・メンタル面の支援に満足していますか	4.29	4.00	3.82		3.73	4.18	<b>4.00</b>	3.94
	(16) 教員は話しかけやすい雰囲気ですか	4.37	4.26	4.09		3.82	4.41	<b>4.19</b>	3.99
	(17) 就職情報の充実さや教員からの支援に満足していますか	4.16	4.05	4.03		3.55	4.18	<b>3.99</b>	3.88
	(18) 国試対策の取組み・支援体制に満足していますか	4.26	4.00	3.94		3.73	4.41	<b>4.07</b>	4.01
	(19) 修学資金・奨学金制度の紹介や授業料等の納付金の徴収猶予等の支援体制に満足していますか	4.26	4.33	3.97		4.18	4.41	<b>4.23</b>	4.05
	(20) 各種事務手続きや窓口対応に満足していますか	4.42	4.44	4.06		3.91	4.18	<b>4.20</b>	4.01
4 学 校 生 活	(21) 看護師に必要な知識と技術を学んでいると思いますか	4.79	4.56	4.21		4.00	4.65	<b>4.44</b>	4.21
	(22) 学校生活を通じて、教職員・友人等との出会いが人としての成長に繋がっていると思いますか	4.63	4.56	4.15		3.82	4.41	<b>4.32</b>	4.20
	(23) 学校生活を通じて、看護職を目指す者として成長できていると実感できていますか	4.66	4.44	4.15		3.82	4.65	<b>4.34</b>	4.32
	(24) 学校生活を通じて、将来のキャリアプランを描けるようになりましたか	4.34	4.26	4.03		3.73	4.47	<b>4.17</b>	4.08
	(25) 総合的にみて、本校の学びや学校生活に満足していますか	4.47	4.49	4.09		3.91	4.29	<b>4.25</b>	4.17
	学生数	39	38	37		10	19		
	回答数	38	39	33		11	17		
	回答率	97.4%	102.6%	89.2%		110.0%	89.5%		

# 【令和7年度 学生満足度調査】総合結果

学 科	3年課程 1年生	3年課程 2年生	3年課程 3年生	2年課程 2年生	助 産	合 計
学生数	39	38	37	10	19	143
回答数	38	39	33	11	17	138
回答率	97.4%	102.6%	89.2%	110.0%	89.5%	96.5%

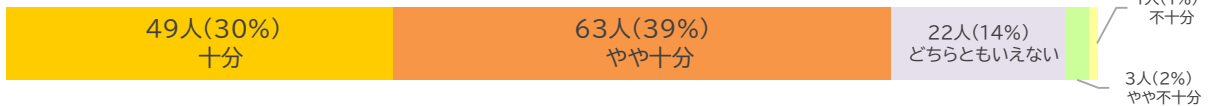
(1) カリキュラムの科目構成は適切だと思いますか



(2) 時間割は履修しやすく設定されていますか



(3) 教員の講義は理解しやすいですか。



(4) 教員の演習は理解しやすいですか。



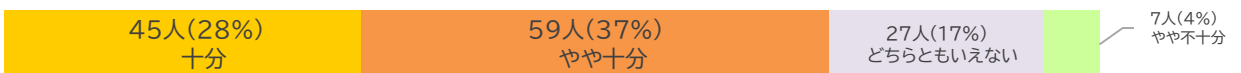
(5) 教員の実習指導は理解しやすいですか



(6) 教室内の照明・空調・音響機器の設備は整備されていると思いますか



(7) 演習室等の室内設備・使用上の環境は整備されていると思いますか



(8) 体育館の設備・使用上の環境は整備されていると思いますか



(9) 実習室の備品・設備・使用上の環境は整備されていると思いますか



(10) 図書室内の室内設備・学習スペース・図書の貸出・蔵書数・種類等の整備状況に満足していますか



(11) 学内で交友関係を広げる機会がありますか



(12) 昼食環境に満足していますか



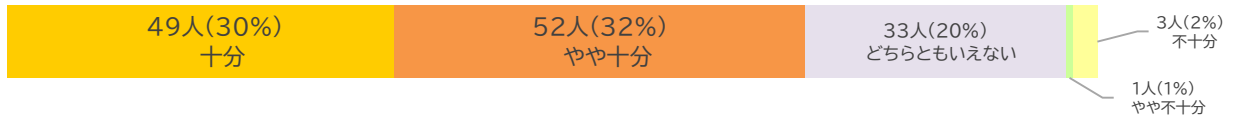
(13) 健康診断など健康面の支援に満足していますか



(14) カウンセラーによる精神面の支援体制に満足していますか



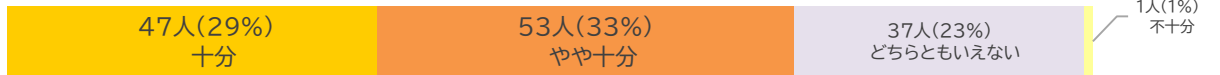
(15) 教員との面談により学習・メンタル面の支援に満足していますか



(16) 教員は話しかけやすい雰囲気ですか



(17) 就職情報の充実さや教員からの支援に満足していますか



(18) 国試対策の取組み・支援体制に満足していますか



(19) 修学資金・奨学金制度の紹介や授業料等の納付金の徴収猶予等の支援体制に満足していますか



(20) 各種事務手続きや窓口対応に満足していますか



(21) 看護師に必要な知識と技術を学べていると思いますか



(22) 学校生活を通じて、教職員・友人等との出会いが人としての成長に繋がっていると思いますか



(23) 学校生活を通じて、看護職を目指す者として成長できていると実感できていますか



(24) 学校生活を通じて、将来のキャリアプランを描けるようになりましたか



(25) 総合的にみて、本校の学びや学校生活に満足していますか



## 令和7年度看護技術演習公開授業の結果

### 1) 目的

学校評価における授業評価は2003年から学校運営評価の中に位置づけられている。授業は学生と教員双方の相互作用で成り立つものであり、教育の質の向上のためには教員の授業力が欠かせない。授業する教員が外部者に授業を見て頂くことで、学校が提供する教育内容や方法を広く周知することになり、教育活動の透明性を高められる。さらに、授業設計や教育方法の改善になり、教育実践力の向上に繋げることができる。臨地実習指導者が参加することにより看護基礎教育における授業内容及び学生の学習状況を把握することで、臨地での学生指導に活用することが出来、実習施設との連携強化につながる。

今年度は、看護学科であらたに実習施設である「笠間市立病院」の実習指導者にも協力いただいた。

### 2) 計画・内容：※AM…8:50～12:00 PM:13:00～16:10

	月 日	科目及び単元名	対象学生	外部参加者(実習施設)	関係者評価委員
1	7月1日(火)PM	分娩期の助産診断技術学	助産学科	県中2名、学園2名、土協1名、 セントラル1名済生会1名、高萩1名	1名
2	7月16日(水)PM	ヘルスアセスメント (VS測定の実際)	3年課程1年	県中2名、ひたちなか2名、 笠間市立1名	—
3	11月10日(月)PM	臨床推論Ⅱ (OSCE)	3年課程2年	県中2名、ひたちなか2名	3名
4	R8年 1月13日(火)PM	看護を展開する技術 (看護過程)	3年課程1年	県中1名	3名
5	1月27日(火)PM	日常生活援助技術Ⅱ (排泄の援助)	3年課程1年	県中1名、ひたちなか1名、 笠間市立1名	—

### 3) 結果 ※アンケートは、病院指導者に協力いただいた。

#### ①参加動機(複数回答可)

	1:分娩期	2:バイタルサイン	3:臨床推論Ⅱ	4:看護過程	5:排泄の援助
参加者数	8名	5名	4名	1名	3名
① 基礎教育の演習に興味があった	5名	3名	2名	1名	2名
② 今後の学生指導に活かしたい	8名	4名	3名	1名	3名
③ 学生のレディネス把握	3名	1名	3名	1名	1名
④ 自身の看護技術を振り返りたい	5名	1名	2名	1名	1名
⑤ 上司に勧められた	2名	2名	2名	0名	1名

#### ②演習の進め方 (評価基準… 4:あてはまる 3:ややあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない)

	1:分娩期	2:バイタルサイン	3:臨床推論Ⅱ	4:看護過程	5:排泄の援助
① 時間配分	3.8	3.6	4.0	3.0	4.0
② 学生の反応	3.9	4.0	4.0	3.0	3.6
③ 演習は実習指導に役立つ	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
④ 資料は実習指導に役立つ	3.0	4.0	4.0	—	4.0
⑤ 真剣に参加していた	4.0	3.6	3.8	3.0	4.0

## 【令和7年度を振り返って】

### <助産学科>

今年度は「分娩期の助産診断技術学」において公開授業を実施し、8名の臨地実習指導者に参加いただいた。参加動機は、実習指導に生かしたいという意見が最も多く、実際の助産学実習において軸となる分娩介助に関する授業であったことが理由と考えられる。授業は、産婦入院時の産婦の状態を分娩4要素からアセスメントを実施し、助産師としての判断を導くシミュレーション演習を実施した。参加した指導者からは、学生がグループで意見を出し合い、思考過程を可視化しながら学習する姿勢や、学習成果が確認できたとの評価が得られた。一方で、臨地実習終了後の指導者会議では、実際の場面でのアセスメントに時間を要する学生が多いとの意見もあった。これを踏まえ、単発の授業にとどまらず、複数事例を用いたシミュレーションを繰り返し実施し、学内の授業・演習と臨地実習がつながるよう臨床判断力を段階的に育成していく必要性が示唆された。

### <看護学科>

看護学科の公開授業では、各実習施設から1から2名の指導者の参加協力を得られた。基礎看護学の3科目（ヘルスアセスメント、臨床推論Ⅱ、看護を展開する技術）において公開授業を実施した。参加した指導者から、いずれの授業においても、教員と学生の関係性が良好で、心理的安全性の高い学習環境が形成されていること、学生がグループワークを通して主体的に意見交換し、互いに学び合う姿勢が評価された。また、OSCEやシミュレーションを取り入れた授業は、臨地実習指導者にとっても学生の思考や技術レベル、レディネスを把握する機会となり、実習指導の参考になるとの意見が多く得られた。

一方で、技術演習においては、患者への説明や行動の意味づけ、声掛けのタイミングなど、実習場面で求められる判断や配慮について、さらなる指導の工夫が必要である。また、グループワークでは学習効果が高い反面、実習では個々に判断する力が求められるため、個人の思考を深める振り返りや課題設定の充実が課題である。

次年度も、学内演習と臨地実習をより有機的につなげられ、学生が実習の場で学習内容を統合・活用できるよう、実習施設との情報共有と連携を一層強化していく必要がある。

## 令和7（2025）年度 授業参観・保護者会結果

今年度から助産学科・看護学科3年課程では、保護者参観授業および保護者会を開催した。学生の学修状況や成長の様子、ならびに本校の教育内容・教育方針について保護者に理解を深めていただくことを目的として実施した。授業参観では、学生が専門職として必要な知識・技術・態度を身に付けていく過程や、主体的に学習に取り組む姿を共有する機会とし、授業参観後に保護者会を開催しては、カリキュラムの概要、実習および国家試験に向けた支援体制、学生生活に関する事項等を説明し、家庭と学校が連携して学生を支える体制づくりを図った。本報告書は、各学科の実施内容および参加者のアンケートについてまとめた。

### 1 授業参観の実施内容

	助産学科	看護学科3年課程		
		1年生	2年生	3年生
月日	7月7日（月）	7月16日（水）	7月10日（木）	7月18日（金）
科目	健康教育技法Ⅱ	ヘルスアセスメント	成人・老年看護学 援助論Ⅲ	臨床看護の実践
単元	マタニティサイクルに おける健康教育Ⅱ	バイタルサイン測定	周術期看護過程	複数受け持患者の 看護
授業参観 参加者	5名	34名（28組）	29名	20名
保護会 参加者	5名	30名	20名	13名

### 2 アンケート結果（自由記載は、原文の通り記載）

(I) 授業参観	助産学科	看護学科1年生	看護学科2年生	看護学科3年生
Q1 授業の内容は理解できたか？				
①非常に理解できた	4人	22人	7人	5人
②理解できた	1人	8人	11人	5人
③あまり理解できなかった	0人	1人	2人	0人
<p>&lt;意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こまやかなポイントまで伝え、見守り、又アドバイスをしてくださっていてとても丁寧と思いました。基本をしっかりと覚えさせるという大切なことと思いました。（看護1年）</li> <li>・昨晚、家族全員の血圧を測る姿に成長を感じました。（看護1年）</li> <li>・資料をもとにさらにわかりやすく説明されていてよかったです。（看護1年）</li> <li>・学生達が血圧測定をするのに細部まで指導されており、先生方の教えが素晴らしいと感じた。（看護1年）</li> <li>・介護の職についているので、私自身も大変勉強になりました。（看護1年）</li> <li>・学生に説明している最初の時間も保護者は後ろではなく、見える位置にしたほうがよかったです。学生の背中しか見え、どのように教えているかわかりづらい。（看護1年）</li> <li>・参観中の保護者のおしゃべりがあると先生方に迷惑なのでおしゃべり禁止をお願いしたいです。（看護2年）</li> <li>・実践を中心にもっとみたかったです（看護2年）</li> <li>・プロセスの大切さ、相手（患者）の立場になって考える大切さ（看護2年）</li> <li>・事前に考えたことや計画を患者の様子と確認してどのようにサポート方法をまとめているのか参観できてよかったです。（看護2年）</li> <li>・同じ患者の条件で3年生との意見があるので言葉をたくさん出し合いそれをまとめていく大切さ、難しさ、頑張してほしい。（看護3年）</li> <li>・1日の全体業務を行う中で受け持ち患者さんの計画を立案⇒展開することは当然のことなので昔は教えてもらうことはなかった気がします。現代はココまで教えてもらえるなんてとても親切で感激しました。（看護3年）</li> <li>・優先順位、思考過程、アセスメント力等に力を入れており内容はよかったです。（看護3年）</li> <li>・演習の様子が見学出来て良かったです。細かく学校での様子がスライドを通して聞けて良かったです。（看護3年）</li> </ul>				

Q2 学生の授業の様子は？

①大変成長を感じた	3人	13人	8人	3人
②成長を感じた	2人	18人	12人	6人
③あまり変化を感じなかった	0人	0人	0人	1人

<意見>

- ・血圧測定の手技はまあできているが、学生1人1人空気入れる握り方が違った。メトロノームはよいと思う。(看護1年)
- ・4月の入学式にはまだ高校生という子たちでしたが、演習が始まるころから緊張感もあり、表情も真剣で看護学生になってきたと感じました。(看護1年)
- ・入学式のころと比べるとみんなの顔つきが変わり、看護学生らしい表情になっていて3か月の間に成長したのを感じました。(看護1年)
- ・子供の真剣に授業を受けている姿に成長を感じました。また、友達とアイコンタクトをとっている姿がほほえましかったです。(看護1年)
- ・高校とは違う指導をしていただいている感じがとてもよかったです。(看護1年)
- ・みんな先生の説明を聞いて集中している姿を見て人の命にかかわる仕事なんだと、子供の真剣な姿を見れてよかったです。(看護1年)
- ・学生たちは一生懸命に取り組んでおり、学びたいという意欲が強いと感じました。(看護1年)
- ・自宅にて「モデルになって」と何度も練習していました。基礎固めをしっかりと、まだまだ甘いところがあるので、強い意志で進んでいってほしいと思います。(看護1年)
- ・グループワークは性格がよくわかるなあと思ってしまいました。わが子の様子を近くで見る勇気が出ず・・・(看護2年)
- ・言葉や対応が少しずつ看護師らしくなってきたと思いました(看護2年)
- ・皆グループ内で協力し合いながら一生懸命に取り組んでいる姿が見れてよかったです。(看護2年)
- ・就職活動について、もう少し細かく聞きたかった。(看護2年)
- ・プロセス、コミュニケーションの大切さ。自身の入院、実母の看護・介護思い出しました。(看護2年)
- ・計画等をグループで話し合い、実行できることが繰り返してきているような感じがわかりました。(看護2年)
- ・グループで話し合いながら2人の患者様をとらえどのように援助していくのかを考えていました。実際に患者様を見たときにペーパーからはわからない部分が見えてどうしたらいいか戸惑う部分も見え難いと感じました。(看護3年)
- ・シミュレーションをもう少し見たかった。(看護3年)
- ・友達とコミュニケーションをとれていて考えてやっていると感じました。(看護3年)

Q3 今後取り上げて欲しいテーマ

- ・分娩介助の授業が見たかったです。(助産学科)
- ・テーマなどはないが、子ども達の姿が見られるのはとてもありがたいので、授業参観楽しみにしています。(看護1年)
- ・ストレッチャー・移動など(看護1年)
- ・正直看護学校で授業参観をさせてもらえらなかつたので、なんでも楽しみなのと、このような学生生活を送っているかを知ることができて新鮮です。(看護1年)
- ・演習はどれも楽しみですし、座学も気になります。解剖生理など(看護1年)
- ・また実習風景がみられたら嬉しいです。(看護1年)
- ・今日のようなシミュレーション、とてもよかったです！(看護2年)
- ・人の気持ちや言葉の重み(がわかる授業)(看護2年)
- ・症例の内容が前もって保護者にあるとどのような内容でやっているのかわかってよかったです。(看護3年)

(2)保護者会	助産学科	看護学科1年生	看護学科2年生	看護学科3年生
Q1内容は理解できたか。				
①とても理解できた	3人	21人	13人	9人
②理解できた	2人	7人	7人	2人
③あまり理解できなかった	0人	0人	0人	0人
Q2保護者会でもっと聞きたかったこと				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特にありません。知りたかった事全て説明して頂きありがとうございました。(助産)</li> <li>・日頃の子どもたちの学習の様子が聞いて良かった(看護1年)</li> <li>・学ぶこと、自分で学習すべきこと、その仕方、大切なところを聞くことができありがたいです。優先順位…日常でやらなければと思いました。(看護1年)</li> <li>・学校生活の様子を写真付きで細かく説明していただきとても分かりやすかったです。(看護1年)</li> <li>・授業風景のスライドをみせていただきありがとうございました。購入した器具をどのように使用しているか知りたかったので良かったです。(看護1年)</li> <li>・受験や採用割合も教えていただきありがとうございます。(看護1年)</li> <li>・就職状況(3年生)、国試、現状の学習状況など詳しく説明してくださりよかったです。(看護1年)</li> <li>・現在の学生たちの現状など先生方とても努力をしてくださって頭が下がります。ありがとうございます。(看護1年)</li> <li>・クラス費等今後かかる費用が知りたかった。(卒業まで概算でも構いません)お便りで構いませんのでいただけるとありがたいです。(看護2年)</li> <li>・進路のことやクラスのことわかってよかったです。(看護2年)</li> <li>・授業参観・保護者会を又設けていただきたいです。(看護2年)</li> <li>・国試の合格ライン、就職試験時のポイント等も聞いて良かったです。(看護2年)</li> <li>・国家試験の状況が聞いて良かった。さらに強化すべきだと感じた。(看護3年)</li> </ul>				
(3)その他 (学校に対してのご意見、ご感想)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特にありません(2名)。(助産学科)</li> <li>・娘の成長を見れて良かったです。ありがとうございました。(助産学科)</li> <li>・お会いした先生方がみなさんととてもあったかい感じてました。楽しんで通っている理由がわかりました。(助産学科)</li> <li>・駐車場の準備をしていただくと助かります。(看護1年)</li> <li>・いつもこまやかにかかわっていただきありがとうございます。毎日へろへろにつかれています。実習も演習も楽しくしていることが感じれてうれしく思います。これからもよろしくお祈りします。このような指導を受けられる学生たちはとても幸せと思いました。卒業生が臨床に来た時にしっかり頑張れる子であることも、このご指導のおかげであると日々感じています。本当にありがとうございます。(看護1年)</li> <li>・今後もきびしくよろしくお祈りしたいと思います!(看護1年)</li> <li>・7月から実習が始まる。日製ひたちなか総合病院で実習ということで、車→電車で通います。実習日数も多いので、定期が利用できたらいいなと思ったのですが、1か月前の申請がないとだめだと言われたと言ってました。できれば早めにこのようなことを教えていただけたらうれしかった。今後の実習もあるのでしっかりサポートしていきたいのに、些細なことでも教えていただけたら経済的にもとても助かります。(看護2年)</li> <li>・ありがとうございました(看護2年)</li> <li>・実習の際、自家用車を持っている子に負担がかかっているような気がします。できるだけ乗り合いをしないよう学校で指導したほうがいいと思います。何かあってはと考えると怖いです。(看護2年)</li> <li>・睡眠の大切さ、食育栄養面等、学校側から書面でいただけたらありがたいです。栄養学での母からの助言ですと食事が偏りがちになっています。1日の水分量(甘え、反抗等、おなかいっぱい)(看護2年)</li> </ul>				

・先生方の大変熱心で丁寧なご指導に応えられるように保護者として協力していきたいと思いました。（我が子はまだまだ足りず申し訳ありません）（看護2年）

・寮生活を送っているため、日常的に子どもの話を聞く時間がとれませんが、学習や実習棟の様子が聞けて安心しました。ありがとうございました。（看護2年）・入学式以来でしたので様子を見れて良かったです。ご指導ありがとうございます。もう少し見守ってください（看護3年）

・日々の丁寧な御指導に感謝しております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。（看護3年）

・学生に対して熱心に教育されていてうれしく思います。看護の仕事は大変なので現場で働けるよう厳しく行っていただいて結構です。（看護3年）